



北海道大学 社会科学実験研究センター

2025 年度年次活動報告書

2026 年 7 月



北海道大学 社会科学実験研究センター 2025 年度年次活動報告書(2026 年 7 月)

※センターの沿革などについてはホームページへ掲載しております。

<https://lynx.let.hokudai.ac.jp/cerss/>

1. 社会科学実験研究センターとは

(1) センターの理念

- ・社会科学における実験研究のための手法の開発と普及を通して、社会科学の実験科学化を推進する。
- ・社会科学における実験研究の本格的導入により、人間科学と社会科学の双方に対して共通の対話可能な研究環境を提供する。
- ・人間・社会科学における実験研究のための国際実験ネットワークの構築を進め、世界各国の拠点を結ぶ国際実験の促進をめざす。
- ・実験研究を通して人間科学と社会科学とを結びつけるための研究活動を行い、その成果を国際的に発信することのできる若手人材を育成する。

(2) センターの主な役割

- ・社会科学実験の国際拠点として先端的研究を展開し、研究成果を国際発信する。
- ・社会科学実験の中心として、他大学の研究者との協力のもと、若手研究者を育成する(博士研究員・リサーチャーの受け入れ、ワークショップの開催等)。

(3) 施設概要

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 6 階に、1) 集団実験室、2) 国際ネットワーク実験室、3) 感覚システム実験室を有している。これらの実験設備は、国際的にも最高水準の社会科学実験施設である。

2. 2025 年度の活動実績の概要

(1) 施設利用

実験室での対面実験への参加者数は 2024 年度に引き続いて回復し、同時にオンライン実験も実施されている。

- ・実験室稼働総日数: 延べ 121 日
- ・実験参加者数: 延べ 2,948 名 (32 プロジェクト)

また、2014 年度より利用を開始した磁気共鳴画像装置(MRI)の 2025 年度稼働日数は 184 日、実験参加者数は 238 名であった。

(2) 研究業績

表 1 2025 年度の研究業績

(人文・社会科学系教員および院生・研究員に限定。詳細は「p. 8～14 研究業績一覧」参照)

著書・分担執筆

全 15 件	洋書: 2 件	和書: 13 件
--------	---------	----------

学術論文

全 27 件	国際誌: 17 件	国内誌: 10 件:
--------	-----------	------------

学会発表

全 56 件	国際学会: 16 件	国内学会: 40 件
--------	------------	------------

(3) 競争的資金獲得

- ・科学研究費補助金: 33 件、総額 82,692 千円(うち人文・社会系 29 件・43,592 円)
 - ・その他の研究助成: 30 件、109,138 千円(うち人文・社会系 16 件・61,188 千円)
- (※分担者に関しては分担額を算入)(詳細は「資料 3 競争的資金獲得状況(p. 5～8)」参照)

(4) 拠点間連携

連携研究員との活動を通じて、海外の先端研究拠点との連携を引き続き推進している。例えば、前センター長の結城雅樹教授は、オックスフォード大学社会的凝集性研究センター所長であり、同大学社会人類学科長でもある Harvey Whitehouse 教授が主導する心理学・人類学・歴史学の融合を通じて人間行動と文化の進化・発展を検討する国際共同研究プロジェクト Seshat、また英国サセックス大学と同国公共放送 BBC Radio 4 による善行に関する多国間比較プロジェクト The Kindness Test にコンサルタントとして参画しているほか、ブリティッシュコロンビア大学、シカゴ大学を始めた世界各地の先端研究拠点との共同研究を進めている。センター長の大沼進教授は、PLOS Climate や Royal Society Open Science 等の副編集委員長をはじめ様々な国際誌のエディタを務める香港科技大学社会科学部 Kim-Pong Tam 教授と、環境行動の国際比較調査の共同研究を推進している。兼務教員の竹澤正哲教授は、マンハイム大学データサイエンスセンター

所長 の Jutta Mata 教授とともに、DFG(ドイツ研究振興協会)のグラントにより文化進化学に関する国際共同研究を遂行している。また 日本学術振興会外国人研究者招へい事業により招致したクラークソン大学 Andreas Wilke 教授と、適応的認知についての共同研究を継続している。

国内の主要拠点との連携も強化している。2021 年度からは、京都大学情報学研究科教授で、令和 8 年度文部科学大臣賞をはじめ人工知能学会の業績賞や功績賞、国際知識情報創造システム学会など国際学会で数々の優秀発表賞を受賞するなど、マルチエージェントシステム分野ではトップランナーの伊藤孝行教授を連携研究員に迎え、JST-CREST などを通じた共同研究を行っている。

表 2 日本学術振興会特別研究員

氏名	資格	受給期間 (年度)	研究費 (千円)	研究課題名
小林慧	DC1	2024 ～ 2026	700	複数他者の潜在的知覚・認知過程の検討による共感性の解明
相馬 ゆめ	DC1	2024 ～ 2026	400	公共的意思決定における多元的共通善の検討:除去土壌問題を題材とした集団討議実験
日下部 春野	DC1	2025 ～ 2027	1,100	評判システムの社会的多様性とその要因: 社会生態学的アプローチによる実証的研究

(5)若手研究者の支援とその成果

- ・日本学術振興会特別研究員:3 名 (表 2)
- ・本センターで研究を行った大学院生の競争的外部資金獲得:8 件、学術賞:7 件 (表 3)

表 3 2025 年度に院生および研究員が獲得した学会賞・学術賞・フェローシップ・研究助成

氏名	学会賞・学術賞・フェローシップ
相馬ゆめ	2025 年度日本リスク学会奨励賞
日下部春野	日本社会心理学会 2025 年度奨励論文賞(前田友吾・結城雅樹と共著)
神田朔・周宇暉	日本視覚学会 2025 年度鶴飼論文賞(金子沙永と共著)
日下部春野	日本人間行動進化学会第 18 回大会若手発表賞
齋藤悠輔	日本人間行動進化学会第 18 回大会若手発表賞
周宇暉	第 60 回赤い糸会優秀エンレイ賞(北海道大学先端人材育成センター主催)

相馬ゆめ	AIP チャレンジプログラム
相馬ゆめ	科学技術融合振興財団補助金助成
竹西海人	科学技術融合振興財団補助金助成
日下部春野	科学技術融合振興財団補助金助成
竹西海人	日本財団 HUMAI プロジェクト(奨励金 A)
齋藤悠輔	日本財団 HUMAI プロジェクト(奨励金 A)
小野さくら	北海道大学大学院文学院「共生の人文科学プロジェクト院生旅費支援」
渡邊芳彦	北海道大学大学院文学院「共生の人文科学プロジェクト院生旅費支援」
相馬ゆめ	北海道大学文学院「楡文賞」

(6)教育活動

大学院共通授業科目「入門ベイジアンモデリング」を開講した。

本学のサマープログラムである Hokkaido Summer Institute 2025 (HSI2025)を、世界第一線の環境心理学者 Kim-Pong Tam 教授(香港科技大学)を招へいして開催した。これにあわせて、Tam 教授に講演をしていただくとともに、大学院生が研究指導を受けた。

本センター主催のコロキウム(CERSS コロキウム)を 4 件(うち 2 件が海外からの研究者)開催した(資料 1 参照)。

3. 2025 年度の活動の点検・総括

(1)4 つの目標別の点検・評価

- ① 社会科学実験の国際拠点としての先端研究の展開
- 本センターの保有する実験参加者登録システムを用いたオンライン実験が、堅実に実施されている。実験参加者数は 2024 年度に続いて増加となり、堅調に増加している。

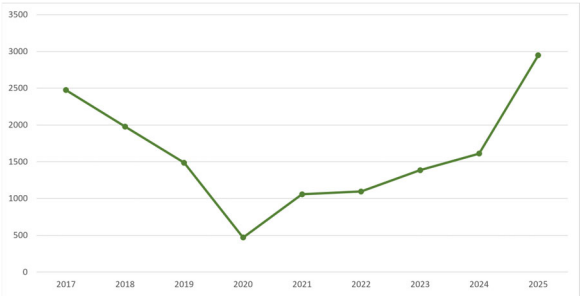


図 1 実験参加者数の推移
2020 年度以降は、センターの実験参加者登録システムを利用して募集したオンライン実験の参加者を含む

2025 年度に本センターの参加者登録システムや実験設備のインフラを利用した実験は 32 件実施され、総実験室稼働日数は年間延べ 121 日、実験参加者総数は

延べ 2,948 名であった。これはコロナ禍以前の 2019 年度の数字を越えた前年度からさらに倍増に近い数字である(図 1 参照)。実験参加者総数が延べ 1,000 人以上という規模での実験研究の組織的推進は国内において類例がなく、国際的にも屈指の規模である。

② 社会科学実験分野における有為の若手人材の育成

2023 年から本センターに着任したさがけ研究者の小倉有紀子特任助教の研究活動が最終年度を迎えた。さがけの採択課題「[社会変革基盤] 文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創」では、「共生の条件を探る: 価値観の融和はどこまで可能か?」という研究課題のもと、実験社会科学と神経科学や情報学の手法とを組み合わせた真に文理融合の研究に取り組んできた。このような将来を先取りした研究テーマに取り組み、その研究を支えてきた。

「若手研究者の支援とその成果」(p.2)にも示したように、本センターに活動基盤を置く若手研究者が 7 件の学術賞を得た。また、日本学術振興会の特別研究員として 3 名が採用され、特別研究員奨励費 3 件に加えて 8 件の競争的外部資金を獲得した。この他にも、表 3 に示すように国内学会は当然のこと、学際的なフィールドでも発表賞を大学院生が受賞するなど、国際的な舞台への活躍の場を拡げている。これらの成果は、本センターが、自立した研究者の育成に向け、若手が早期から主体的な研究活動を行えるための場を提供してきたことの表れと言える。

これまで本センターで教育指導を受けた若手研究者は、実験社会科学を担う有為の人材として高く評価され、国内外の大学や研究機関のポジションを獲得してきた。2025 年度は、本拠点で教育を受けた若手研究者が北海道大学大学院法学研究科、産学・地域協働推進機構、脳情報通信融合研究センター(CiNet)に新たなポジションを得た。

以上のように、本センターでは、「社会科学実験分野における有為の若手人材の育成」という所期の目標が着実に達成されている。

③ 国際的にインパクトのある研究成果の発信

本センターの人文・社会科学系の構成員(専任教員・兼務教員及びその指導学生や雇用ポスドク等)による学術論文は、2025 年度には、計 17 本の国際学術論文が掲載もしくは掲載決定し、16 件の国際学会発

表がなされた。本センター構成員(専任教員・兼務教員及びその指導学生や雇用ポスドク等)による学術論文は、*Scientific Reports*(総合科学)、*PLOS Climate*(気候変動)、*Journal of Cross-Cultural Psychology*(心理学)、*eNeuro*(脳神経科学)、*Frontiers in Behavioral Economics*(行動経済学)など広範な領域にまたがる第一線の国際学術誌に掲載された。また、本センター構成員による論文は、心理学、経済学、経営学、社会学、政治学、法学、人類学、情報科学、進化生物学、動物行動学、社会物理学など、やはり広範な領域の国際学術誌で多数の引用を受けている。例えば Altmetric Score で、センター長の大沼進教授と兼務教員の結城雅樹教授、瀧本彩加准教授、竹澤正哲教授、河原純一郎教授、小川健二教授、河西哲子教授、阿部匡樹教授、小浜祥子教授の論文が Top 5%を維持している。また本数では、Top 5%と Top 25%に、それぞれ 23 本と 28 本、本センターの教員が出版した論文が入っている。

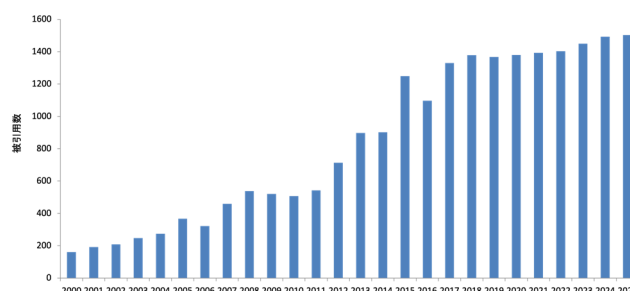


図 2 国際学術誌における論文被引用数の推移

図 2 は、本センター構成員による論文の国際学術誌における被引用回数の推移を示している。本センターが発足した 2007 年以降、国際業績が着実に増加し、高止まりの状態にあることがわかる(注:本センターには、医歯薬系部局からの兼務教員もいるが人文・社会科学系の構成員による研究成果のみを掲載している)

図 3 に、院生・ポスドクが第一著者となって出版された国際学術論文数の推移を示す。多少の波はあるも

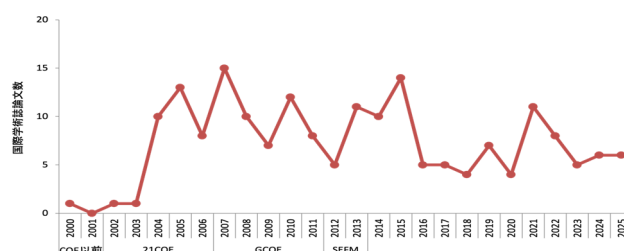


図 3 院生・PD が第一著者として公刊した国際学術論文数の推移

の、依然として社会科学分野としては国内では傑出した数を輩出している。

以上のように、「国際的にインパクトのある研究成果の発信」という所期の目標に対し、着実に成果を積み重ねている。

④ 国内外の研究拠点との連携強化を通じた、人間・社会科学における実験研究のための国際ネットワークの構築

本センターは、さががけをはじめ、CREST、国際共同研究加速基金、基盤 A、環境総合推進費などの研究資金を獲得しており、社会科学系として傑出した実績を上げている。このことは、単に資金面だけでなく、国内外のネットワーク拡張・連携強化とも連動する。すなわち、これらの競争的資金は共同研究からなっており、これらのプロジェクトなどを通じて、国内外の主要研究拠点（英オックスフォード大学認知進化人類学研究所、同サセックス大学心理学部、同バーミンガム大学心理学部、同ロンドン大学ゴールドスミス校心理学部、独マックスプランク進化人類学研究所、フランス国立科学研究センター(CNRS)、フランス原子力安全・放射能防御局(ASN)、香港科技大学社会科学部、中国浙江師範大学心理学院、米シカゴ大学ビジネススクール、同ウィリアム&メリー大学心理学科、京都大学文学研究科・情報学研究科、東北大学東北アジア研究センター、一橋大学経営管理研究科、玉川大学脳科学研究所、奈良先端科学技術大学院大学、高知工科大学マネジメント学部、生理学研究所生体機能情報解析室、理化学研究所脳神経科学研究センター、大阪大学人間科学研究科・工学研究科・感染症総合教育研究拠点、産業技術総合研究所、国立環境研究所、統計数理研究所、総合地球環境学研究所など）との間に共同研究体制を構築・拡張している。

2020 年 1 月 30 日付で日本学術会議が公開した「第 24 期学術の大型研究計画に関する マスタープラン」(マスタープラン 2020)では、学術大型研究計画(区分 I)の一つに「調和ある多様性に向けての新しい心理

学の構築」が採択され、北海道大学もその実施機関に含まれている。同計画は、マスタープラン 2010、および文科省「最先端研究基盤事業」の補助対象事業としても採択された「心の先端研究のための連携拠点(WISH)構築」事業で積み重ねられた実績を、さらに次のフェーズへと飛躍させるものであると位置づけられている。WISH 事業では、本センターに対してシーメンス社製 3 テスラ MAGNETOM Prisma(施設整備費補助事業; 3 億円)が導入され、現在も本センターの研究設備として稼働している。同装置は本学医歯学総合研究棟に設置され、本センターに所属するメンバーだけでなく、医学系から理学系、教育学系に至る全学の研究者によって幅広く利用されている。本装置の導入を通じて、学内の部局間に加え、学内外の先端研究拠点間の壁を超えた研究連携が推進されている。

とりわけ、本センター兼務教員の瀧本は、文系部局の研究者としては、本学が将来の中核を担う研究を育てるという J-PEAKS の研究プロジェクトに文系部局からは唯一研究代表者として採択されている。すなわち、本学の将来を牽引すると期待される研究の一つとして注目されている。

(2) 総括と今後の展望

以上のように、本センターは、教育および研究活動を通じて、社会科学実験の国際的中核拠点としての高い評価を確立してきた。こうした実績は、「社会科学実験に関する教育研究の進展に資することを目的とする」という本センターの設立目的に適うものである。本センターは秀逸な若手研究者の集まる拠点であることは明白である。

このように、本センターは社会科学実験の国際的中核拠点として、日々の研究教育活動を鋭意展開している。北海道大学の人文社会科学分野における屈指の先端研究拠点として、社会科学実験の国際的進展と普及に努めつつ、来るべき「人間・社会科学統合」に向けて世界的役割を果たしていくことが、本センターの今後の重要なミッションである。

資料 1 CERSS コロキウム、共催ワークショップ学術セミナー等

日付	タイトル	講演者
CERSS コロキウム		
2025/5/28	個を起点としたソーシャルイノベーションデザイナー社会的創造性ー	松前あかね(九州大学 芸術工学研究院)
2025/6/4	A multi-level model of mental and planetary health.	Gerhard Reese (Victoria University Wellington)
2025/7/30	“文化差”を再考する: 文化心理学が抱える存在論的・認識論的問題	草野広大(Post-Doctoral Associate, New York University Abu Dhabi)
2025/8/14	Gratitude to Nature: Evidence from 10 countries.	Kim-Pong Tam (Division of Social Science, The Hong Kong University of Science and Technology, Professor)

資料 2 アウトリーチ活動

日付	タイトル	実施者
2025/6/17	e コマースサイトに埋め込まれたステルスマーケティング表記の検出 (2025 年度 第 1 回 UCD 研究部会 (依頼講演) 三菱食品株式会社)	河原純一郎
2025/7/12	パーキンソン病について(令和 6 年度 NPO 法人 iCare 北海道活動報告会)	矢部一郎
2025/8/25	“A cerebellar internal model for temporal prediction of rhythms”, (Symposium 14. Decoding the cerebellum in health and disease. K-Brain 2025 & The 3rd CJK Neuroscience Meeting (KSBNS2025), organized by Kazuo Kitamura, 仁川, 韓国)	田中真樹
2025/9/7	「人生 100 年のすすめ～親子で考える MCI～」AIR-G' FM 北海道	矢部一郎
2025/9/17	「私」の行為に潜む「他者」の影響(アカデミックファンタジスタ 2025・札幌開成中学校)	阿部匡樹
2025/11/5	「私」の行為に潜む「他者」の影響(アカデミックファンタジスタ 2025・新川高校)	阿部匡樹
2025/2/25	「私」の行為に潜む「他者」の影響 (アカデミックファンタジスタ 2025 (札幌創成高校))	阿部匡樹
2025/10/2	融合研究に至った経緯紹介 (融合プロジェクト、はじめの一步 ～北大 J-PEAKS 事業採択者による事例紹介～)	瀧本彩加
2025/10/19	“Decoding subcortical mechanisms of temporal prediction of periodic events” (Timing Research Forum 4 (TRF4) Keynote Lecture, organized by Martin Wiener, Yuko Yotsumoto, Hugo Merchant, 東大駒場キャンパス, 東京)	田中真樹
2025/11/23	ウマの生態とところ ～人馬の望ましい関係性構築に向けて～ (日本動物行動学会第 44 回大会公開シンポジウム「動物と人間の関係」)	瀧本彩加

2025/12/6	さっぽろ子ども環境コンテスト 2025 審査委員長 (さっぽろ子ども環境コンテスト 2025)	大沼進
2025/12/6	見ている世界は本当に“そのまま”か? (第 36 回北大人文学カフェ)	金子沙永
2026/1/4	大河コラボ! 干支のウマ“相棒力”の秘密に迫る (NHK「ダーウィンが来た!」)	瀧本彩加
2026/1/11	『馬が合う』馬たちは古くから私たちの相棒～ウマのコミュニケーション能力と特性に迫る! (BAYFM78 THE FLINTSTONE)	瀧本彩加
2026/1/13	生活の一コマから眺める学振申請書の書き方 (文学研究院研究推進委員会主催の若手研究者支援セミナー「学術振興会特別研究員 DC・PD 申請書の書き方セミナー 2025～学振特別研究員の申請に向けてーはじめの一步!」)	竹西海人
2026/2/5	インタビューに基づく記事 (日本経済新聞の朝刊・文化欄)	瀧本彩加
2026/2/7	ココロでつながる馬と人～研究者がひも解く協力のしくみ～ (北大 x 帯畜サイエンス・カフェ「ココロでつながる馬と人～研究者がひも解く協力のしくみ～」)	瀧本彩加
2026/2/8	浜美枝のいつかあなたと(文化放送)出演	瀧本彩加
2026/2/20	動物の知性と感情 (札幌市円山動物園職員による研究会)	瀧本彩加
2026/2/20	なぜ人は騙されるのか-認知心理学の視点から- (北海道消費者協会・第 3 回消費生活リーダー研修講座)	河原純一郎

資料 3 競争的資金獲得状況の詳細

文部科学省科学研究費(代表)

(社会科学実験研究センター教員が代表を務める研究について、2025 年度に交付された直接経費の金額)

資金名	期間(年度)	代表者(他・分担者数)
研究課題		金額(千円)
基盤研究 (S)	2024～2028	田中真樹
小脳を起点とした大脳機能連関による行動戦略のアップデート機構の解明		35,800
基盤研究 (A)	2022～2025	高橋伸幸、他 4 名
一般交換において用いられる評判情報を作りだす情報統合過程の理論的・実証的検討		7,100
基盤研究(B)	2024～2027	小川健二
感覚運動皮質における層別情報表現の解読による能動的推論仮説の検証		3,600
基盤研究 (B)	2022～2026	大沼進、他 3 名
分断を乗り越えた共通善を目指す合意形成過程: 功利主義 vs 多元的公正の超克		2,800
基盤研究 (B)	2022～2026	瀧本彩加
共同養育とその心理基盤に関する比較認知発達科学的研究		1,900
基盤研究(B)	2025～2028	河原純一郎、他 2 名
遮蔽顔の補間メカニズム: 平準化理論と増幅理論の対比		1,700

基盤研究 (B)	2023～ 2025	矢部一郎	
Bassoon proteinopathy 病態に関する継続的研究			3,200
基盤研究 (B)	2022～ 2027	結城雅樹、他 3 名	
高関係流動性下の自己奉仕性と向社会性のパラドクス—ポジティブ評判期待の役割			2,900
基盤研究(B)	2025～ 2028	小浜祥子、他 5 名	
自然災害と国家間紛争:国際的救援活動の実現とその効果に関する包括的検討			3,500
基盤研究(B)	2025～ 2028	宮内泰介、他 4 名	
複雑な問題の社会学的解決技法の構築			2,700
基盤研究 (C)	2023～ 2025	阿部匡樹、ほか 1 名	
最適化か、社会性か:共同行為における潜在的組織化の解明			1,000
基盤研究 (C)	2024～ 2026	深山誠也	
高齢者介護組織の組織能力パッケージの動態的解明			700
挑戦的研究(開拓)	2025～ 2028	尾崎一郎、他 6 名	
現代的宗教秩序を包摂する新しい「政教分離」論の構築			5,800
挑戦的研究(萌芽)	2025～ 2026	小浜祥子	
政治・国際関係研究のための自然災害データセットの構築			2, 500
若手研究	2023～ 2026	田辺弘子	
場面に応じた歩容のブランディング方略と印象形成の多様性の数理解析			700

文部科学省科学研究費(分担)

(社会科学実験研究センター教員が分担者を務める研究について、2025 年度に配分された分担額)

資金名	期間(年度)	分担者	
研究課題			金額(千円)
国際共同研究加速基金(海外連携研究)	2023～ 2025	金子沙永(代表:四本裕子、他 1 名)	
時間感覚知覚の神経機序の検証と理論に基づく時間感覚操作法の確立			1,250
基盤研究 (A)	2023～ 2026	金子沙永(代表:高橋庸介、他 2 名)	
知覚像はどこまで自由に操れるのか:知覚像制御の心的過程と脳内基盤の解明			500
基盤研究 (A)	2023～ 2026	小川健二(代表:高橋庸介、他 2 名)	
知覚像はどこまで自由に操れるのか:知覚像制御の心的過程と脳内基盤の解明			1,300
基盤研究(A)	2024～ 2027	金子沙永(代表:栗木一郎、他 6 名)	
脳活動および知覚の個人差に基づく脳内色情報表現の研究			1,000
基盤研究(A)	2023～ 2027	小川健二(代表:亀田達也、他 3 名)	
集合的意思決定のメカニズム:計算モデルによる集合知発生条件の解明			200
基盤研究 (A)	2022～ 2026	小浜祥子(代表:多胡淳、他 5 名)	
国際関係をめぐる不満の国際比較実証研究			500
基盤研究(A)	2023～ 2026	小浜祥子(代表:鈴木基史、他 6 名)	

分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析			700
基盤研究 (A)	2022～ 2025	小浜祥子(代表:久保文明、他 22 名)	
現代アメリカにおける政治的地殻変動:政党再編と政策的収斂			260
基盤研究 (A)	2024～ 2028	河原純一郎(代表:山口真美、他 3 名)	
顔認知のエキスパート化に顔学習環境が及ぼす影響の実験的検討			300
基盤研究(A)	2022～ 2025	瀧本彩加(代表:高橋伸幸、他 3 名)	
一般交換において用いられる評判情報を作り出す情報統合過程の理論的・実証的検討			1,000
基盤研究(B)	2022～ 2025	小浜祥子(代表:清水直樹、他 4 名)	
選挙対策としての政策変更:選挙の存在が政策に及ぼす影響の包括的分析研究課題			70
基盤研究 (B)	2025～ 2028	小川健二(代表:河原純一郎、他 1 名)	
遮蔽顔の補間メカニズム:平準化理論と増幅理論の対比			700
基盤研究 (B)	2024～ 2025	大沼進(代表:安藤香織、他 2 名)	
多元的無知が環境配慮行動を阻害するプロセスの解明—国際比較調査・実験による検討			110
基盤研究 (C)	2023～ 2025	深山誠也(代表:平本健太)	
政策形成と組織間関係—新・政策の窓モデルによる実証研究			662
基盤研究(C)	2023～ 2026	河原純一郎(代表:大杉尚之)	
「ホスピタリティ」を感じさせる身体動作のパラメータ推定			900
基盤研究(C)	2024～ 2027	小川健二(代表:柴田寛)	
運動と感覚の強度に関する言語刺激を量的シミュレーションで理解する脳内基盤の解明			50
基盤研究(C)	2023～ 2026	河原純一郎(代表:大杉尚之)	
「ホスピタリティ」を感じさせる身体動作のパラメータ推定			900
基盤研究(C)	2024～ 2026	矢部一郎(代表:山田崇弘、他 4 名)	
医療資源の少ない遠隔地におけるゲノム医療展開に関わる課題抽出と解決戦略の解明			100
挑戦的研究(萌芽)	2025～ 2026	河原純一郎(代表:佐藤隆夫、他 7 名)	
「視点を超越した」認知の探究:眼球運動によるイメージ統合とその機能的意義			90

文部科学省科学研究費を除く研究助成

(社会科学実験研究センター教員が代表及び分担者を務める研究について、2025 年度に交付・配分された金額)

資金名	期間(年度)	代表者・分担者	
研究課題			金額(千円)
環境省(環境再生保全機構)環境総合推進費	2025～ 2027	大沼進(代表:保高徹生、他 2 名)	
県外最終処分・再生利用のシナリオ及び候補地選定プロセスに関する社会受容性の評価および深化に関する研究			7,760

国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(JST CREST)	2020 ～ 2025	大沼進(代表: 伊藤孝行、他 3名)
ハイパーデモクラシー:ソーシャルマルチエージェントに基づく大規模合意形成プラットフォームの実現		11,000
環境省(環境再生保全機構) 環境研究総合推進費	2021 ～ 2025	大沼進(代表: 大迫政浩、他 9名)
3R プラスと海洋プラスチック排出抑制対策に係る評価システムの構築		1,532
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム「サーキュラーエコノミーシステムの構築」	2023 ～ 2027	大沼進(代表: 浅利美鈴)
プラスチックの適切な資源循環システム構築に向けた消費者等の行動変容に係る実践的研究		2,000
原子力発電環境整備機構「地層処分事業に係る社会的側面に関する研究支援事業 III」	2024 ～ 2025	大沼進(代表: 野波寛、他 2 名)
当事者・非当事者の相互作用がサイト選定の意思決定プロセスに影響を及ぼすスパイラル・アプローチの提起		1910
令和7年度横浜駅西口における散乱物抑制対策検討基礎調査の監修	2025	大沼進
		400
学術コンサル産学連携推進経費(文学部)	2025	大沼進
		98
J-PEAKS 連携研究プラットフォーム事業	2025	瀧本彩加、他 2名
哺乳類の生理学・心理学・行動学から共同養育の本質を捉える一少子化問題の解決に向けて		4,000
One-Health Research 推進費	2025	瀧本彩加
ウマに対するデジタル環境エンリッチメントの開発		500
Thoroughbred Aftercare and Welfare 多様な馬の利活用等の取組を支援し、発展させるための事業	2025	瀧本彩加
馬のストレス指標・行動心理等の分析・調査研究の支援等事業		2,000
学術研究動向等調査	2025 ～ 2026	河原純一郎
社会科学(特に心理学)分野に関する学術研究動向及び学術振興方策ー心理学系大学院修士・博士課程への進学意識調査及び喚起実践ー		4,000
札幌市主催 中学生向け「健康・バイオ分野」探究プログラムにおける認知科学・脳波に関する講義および実験指導に関するコンサルティング	2025 ～ 2026	河原純一郎、 他 1名
		150
	2024 ～ 2027	河原純一郎、 他 2名
衛生用品の見た目や使用場所における認知心理に関する研究		804
JST 戦略的創造研究推進事業(さきがけ)	2022 ～ 2025	小倉有紀子

共生の条件を探る:価値観の融和はどこまで可能か?		22,536
サントリー文化財団研究助成「学問の未来を拓く」	2025～ 2026	小浜祥子、他 4名
「人質の提供から外交官の提供へ:近代在外公館制度の起源」		800
日本証券奨学財団研究出版助成金	2025	深山誠也
高齢者介護組織の経営ー資源、活動、価値基準のパッケージー		1,000
生理学研究所共同利用研究	2025	阿部匡樹
共同行為の神経基盤:三名同時脳活動計測によるアプローチ		500
JST 戦略的創造研究推進事業 CREST	2023～ 2028	田中真樹
感覚入力周期性が生み出す脳機能の理解とその操作		18,900
国立研究開発法人日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業	2025 ～ 2027	矢部一郎(代表: 矢口裕章)
先行研究で確立した抗神経抗体測定を用いた自己免疫性小脳失調症の診断と前向きレジストリの作成		500
TOPPAN ホールディングス株式会社 産業創出講座 認知症包括研究部門	2023 ～ 2027	矢部一郎
測定デバイスを用いた認知症の早期診断および評価法に関する探索的研究、及びエクソソームを用いたアルツハイマー病の早期診断技術の研究		7,750
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 認知症研究開発事業	2023 ～ 2025	矢部一郎(代表: 関島良樹)
病的バリエーションを有する遺伝性認知症を対象としたコホート構築による病態解明、バイオマーカー開発、治験促進		1,500
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 認知症研究開発事業	2024 ～ 2028	矢部一郎(代表: 岩坪威)
アルツハイマー病疾患修飾薬全国臨床レジストリの構築と解析		1,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業	2023 ～ 2025	矢部一郎(代表: 塩田倫史)
CAG/CTG リピート伸長病における DNA 標的治療薬の開発		2,000
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 臨床研究・治験推進研究事業	2024 ～ 2027	矢部一郎(代表: 勝野雅央)
球脊髄性筋萎縮症に対するメキシレン塩酸塩の有効性及び安全性を検討する医師主導治験		1,800
厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2023 ～ 2025	矢部一郎(代表: 久留聡)
スモンに関する調査研究		200
厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2024 ～ 2025	矢部一郎(代表: 山田正仁)
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究		1,000

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 認知症研究開発事業	2024 ～ 2026	矢部一郎(代表:湯山耕平)
血液中細胞外小胞分子デジタル検出技術を利用したアルツハイマー病バイオマーカー診療法の開発研究		9,500
厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学研究事業)	2025	矢部一郎(代表:池内健)
APOE 遺伝カウンセリングの実態調査と体制整備に向けた課題の検討のための研究		1,800

2025 年度研究業績一覧

【著書・分担執筆(洋書)】

- Suzuki, K., Nakadegawa, Y., Miura, K., Shibuya, T., Ohnuma, S. (2025). Understanding Behavioral Differences Between Machine Agents and Human Participants Based on How They Play the Energy Transition Game. In: Lukosch, H., Freese, M., Meijer, S. (eds) Simulation and Gaming across Borders. ISAGA 2024. Lecture Notes in Computer Science, vol 15420. Springer, Cham, 10.1007/978-3-031-86555-8_3.
- Tanaka, M. & Okada, K.I. (in press). Cerebellar control of saccadic eye movements. In: Advances on the Roles of the Cerebellum in Motor Control, Elsevier.

【著書・分担執筆(和書)】

- 宮内泰介. (2025). 多様なコミュニティ実践を生み出すもの. In: 宮内泰介(編). コミュニティを实践すること:わたしたちはコミュニティに何を求めているのか. 新泉社.
- 宮内泰介. (2025). 三陸漁村に見る多層的なコミュニティ:「八重子の日記」から. In: 宮内泰介(編). コミュニティを实践すること:わたしたちはコミュニティに何を求めているのか. 新泉社.
- 宮内泰介. (2025). 私たちは今コミュニティをどうとらえればよいのか. In: 宮内泰介(編). コミュニティを实践すること:わたしたちはコミュニティに何を求めているのか. 新泉社.
- 大沼進. (2025). 市民参加による環境計画づくりについて考える:SDGsを目指す環境計画策定のプロセスデザイン(第1章). In: 日本心理学会(監修), 柿本敏克(編). 地球社会で生きるための心理学, 誠信書房.
- 白井慎一・矢部一郎. (2026). 小脳. In: Cary D. Alberstone(著), 野元正弘(監訳). イラストでわかる神経症候 原書 2 版 機能・解剖学から診断へのアプローチ, 丸善出版.
- 竹谷隆司・田中真樹. (2025). 注意の神経メカニズム. In: 和氣典二・重野純・村上郁也(編). 感覚・知覚心理学ハンドブック, 誠信書房.
- 竹谷隆司・田中真樹. (2025). 注意の障害. In: 和氣典二・重野純・村上郁也(編). 感覚・知覚心理学ハンドブック, 誠信書房.
- 瀧本彩加. (2025). 子育て:共同繁殖・ヘルパー・おばあさん仮説. In: 日本哺乳類学会(編). 哺乳類学の百科事典, 丸善出版.
- 瀧本彩加. (2025). 馬のころ:人の相棒になれた理由. 岩波書店.

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2023 ～ 2025	矢部一郎(代表:小野寺理)
運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班		700
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)	2023 ～ 2025	矢部一郎(代表:戸田達史)
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究		800

- 瀧本彩加. (2025). ヒトとウマの共生(ウマの家畜化), 伴侶動物の対ヒト社会的知性. In: 日本動物行動学会(編)・日本動物心理学会(編集協力). 動物の行動と心の事典, 朝倉書店.
- 田中真樹. (2025). 神経回路機能/総論. In: 大森治紀・大橋俊夫・河合康明・黒澤美枝子(監修), 鯉淵典之・伊佐正・河合佳子・八木田和弘・横山詩子・久場博司(編). 標準生理学第 10 版, 医学書院, 207-213.
- 矢口裕章・矢部一郎. (2025). 認知症とてんかん. In: 下畑享良・矢部一郎・杉江和馬・中島一郎・堀江信貴(編). Annual Review 神経 2025, 中外医学社.
- 矢部一郎. (2026). ハンチントン病. In: 福井次矢・高木誠・小室一成(編). 今日の治療指針 2026, 医学書院.

【学術雑誌(国際誌)】

- Akaike S, Ogata A, Nakagawa Y, Ura S, Kondo K, Imashiro R, Hashimoto S, Yabe I, Otsuki M. (2025). The Visual Image Simple Recognition Test, a language-minimized recognition test: Psychometric and clinical evaluation in Alzheimer's disease, *Journal of Alzheimer's Disease*, **109**(3), 13872877251405433, 10.1177/13872877251405433.
- Akaike S, Ura S, Ogata A, Fukutake T, Yabe I, Otsuki M. (2025). Delayed progressive apraxia of speech: A novel clinical entity distinct from primary progressive aphasia – A descriptive case series, *Journal of the Neurological Sciences*, **476**, 123602, 10.1016/j.jns.2025.123602.
- Bando K, Honda T, Ishikawa K, Shirai S, Yabe I, Ishihara T, Onodera O, Higashiyama Y, Tanaka F, Kishimoto Y, Katsuno M, Shimizu T, Hanajima R, Kanata T, Takahashi Y, Mizusawa H. (in press). Distinct Contribution of Cerebellar Inferior Posterior Lobe to Motor Learning in Spinocerebellar Degeneration: A Deep Learning-Based Analysis, *The Cerebellum*.
- Cui, Q., Shibata, Y., Hara, T., Souma, Y., Tsujimoto, M., Ito, T., & Ohnuma, S. (2025). Utterance analysis of discussions structure and discourse quality: A case of removed soils in Fukushima prefecture, Japan, *Artificial Intelligence for Research and Democracy (First International Workshop, AI4Research 2024, and 4th International Workshop, DemocrAI 2024)*, 10.1007/978-981-97-9536-9_7.
- Easterbrook, M.J., Grigoryan, L., Smith, P.B., Koc, Y., Lun, V.M.C., Papastylianou, D., Torres, C., Efremova, M., Hassan, B., Abbas, A., al-Selim, H., Anderson, J., Cross, S.E., Delfino, G.I., Gamsakhurdia, V., Gavreliuc, A., Gavreliuc, D., Gul, P., Gunsoy, C., Hakobjanyan, A., Lay, S., Lopukhova, O., Hu, P., Sunar, D., Texeira, M.L.M., Tripodi, D., Rivera, P.E.D., Yuki, M., Ogusu, N., Kwantes, C.T., Diaz-

- Loving, R., Floriano, L.P., Chaleeraktragoon, T., & Chobthamkit, P. (2025). The Social Cure Properties of Groups Across Cultures: Groups Provide More Support but Have Stronger Norms and Are Less Curative in Relationally Immobile Societies, *Social Psychological and Personality Science*, **16**(7), 780-791, 10.1177/19485506241230847.
- Eguchi, K., Yaguchi, H., & Yabe, I. (2025). Ataxia Movement Disorders Clinical Practice, *12 Suppl 3*, S31-S35, 10.1002/mdc3.70190.
- Haruki, Y., Yang, Y., Suzuki, K., Imamizu, H., & Ogawa, K. (2025). Real-time fMRI neurofeedback boosts heartbeat perception by modulating insula activation pattern during interoceptive attention, *Imaging neuroscience (Cambridge, Mass.)*, **3**, 10.1162/IMAG.a.142.
- Hatanaka, Y., Mori-Yoshimura, M., Utsugisawa, K., Tsujino, A., Fujita, N., Yabe, I., Igarashi, Y., Motomura, M. (2025). Long-term Efficacy and Safety of Amifampridine Phosphate (Firdapse®) in Japanese Patients with Lambert-Eaton Myasthenic Syndrome (LMS-005 Study). *Internal Medicine*, **64**(24), 3493-3501, 10.2169/internalmedicine.5363-25.
- Imai, F., Shinozaki, J., Saito, H., Nagahama, H., Sakurai, Y., & Ogawa, K. (2025). The common neural representation in the primary motor area between motor execution and kinesthetic motor imagery. *bioRxiv*, 10.1101/2025.07.11.664262.
- Kaneko, S., Kuriki, I., Andersen, S.K., & Peterzell, D.H. (2025). Individual variability in steady-state VEP responses for hues sweeping around cardinal color axes: Clues to cortical color coding? *Journal of Vision*, **25**(12), 1-19, 10.1167/jov.25.12.2.
- Kido, Y., & Takezawa, M. (2025). Empirical evidence for the spread of Cooperation through copying successful groups, *Scientific Reports*, **15**, 22289(2025), 10.1038/s41598-025-07863-0.
- Kitakaji, Y., Hizen, Y., & Ohnuma, S. (2025). Communication among selected members improves cooperation in a social dilemma. *Frontiers in Behavioral Economics*, **4**, 1495995, 10.3389/frbhe.2025.1495995.
- Kobayashi, K., & Kasai, T. (2026). Social Motivation Modulates Early Visual Processing for a Few Others' Emotions. *International Journal of Psychophysiology*, **223**, 113361, 10.1016/j.ijpsycho.2026.113361.
- Kudo A, Yaguchi H, Nomura T, Uwatoko H, Shirai S, Takahashi-Iwata I, Matsushima M, Yamada T, Yabe I. (2025). Leukoencephalopathy with Primary Familial Brain Calcification: a Rare Phenotype Associated with a Novel SLC20A2 Frameshift, *Clinical Neurology and Neurosurgery*, **259**, 109207, 10.1016/j.clineuro.2025.109207.
- Li, W.Q., Ishiyama, A., & Yuki, M. (2026). Do Negative Attitudes Toward Deviance Predict Direct and Indirect Social Control? The Moderating Role of Culture. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, **57**(2), 191-205, 10.1177/00220221251393620.
- Miyachi, S., Oshima, Y., Yazaki, K., Futaki, N., Shirai, Y., Tanei, Z.I., Ikebe, Y., Iwata, I., Ujiie, H., Onozawa, M., Hirano, S., Tanaka, S., & Yabe, I. (2025). An Autopsy Case of Amyotrophic Lateral Sclerosis With Sudden Death Showed Histological Features of Lewy Body Disease. *Neuropathology*, **45**(4), e70009, 10.1111/neup.70009.
- Nakamata, T.K., Mori, Y., Urata, Y., Yuki, S., & Ohnuma, S. (2025). Preventing riverside littering through structural change: An action research field experiment using two intervention measures. *Asian journal of social psychology*, **28**(4), 10.1111/ajsp.70064.
- Nakamura, R., Tohnai, G., Atsuta, N., Matsuda, Y., Morimoto, S., Ito, D., Katsuno, M., Izumi, Y., Morita, M., Iwata, I., Yabe, I., Nakazato, T., Hattori, N., Hirayama, T., Kano, O., Tamura, A., Suzuki, N., Aoki, M., Shibuya, K., Kuwabara, S., Oda, M., Hashimoto, R., Aiba, I., Ishihara, T., Onodera, O., Yamashita, T., Ishiura, H., Bokuda, K., Shimizu, T., Ikeda, Y., Hasegawa, K., Tanaka, F., Yokota, T., Kanai, K., Noto, Y., Kaji, R., Watanabe, H., Konishi, T., Hasegawa, M., Niwa, J., Doyu, M., Okada, Y., Okano, H., Nakatochi, M., Sobue, G., & on behalf of the Japanese Consortium for Amyotrophic Lateral Sclerosis research (JaCALS) study group. (2025). A genome-wide association study identifies the GPM6A locus associated with age at onset in ALS. *Communications Biology*, **8**(1), 1720, 10.1038/s42003-025-09168-4.
- Ogawa, K., Yang, Y., Yang, H., Imai, F., & Imamizu, H. (2025). Human Sensorimotor Cortex Reactivates Recent Visuomotor Experience during Awake Rest, *eNeuro*, 10.1523/ENEURO.0134-25.2025.
- Okada, K.I., Kameda, M., & Tanaka, M. (2025). Comparison of Signals from Cerebellar Purkinje Cells and Deep Nuclei during Temporal Prediction in Primates. *The Journal of neuroscience*, **45**, e1061252025, 10.1523/jneurosci.1061-25.2025, 10.1523/JNEUROSCI.1061-25.2025.
- Okada, K-I., & Tanaka, M. (2025). Strategic switching in sensorimotor synchronization. *Journal of neurophysiology*, **134**(2), 783-785, 10.1152/jn.00356.2025.
- Park, D., Lee, J., Tanabe, H., & Park, J. (2025). Exploring Movement Control Strategies in Ballet Performance: Effect of Music on Artistic Expression exploring. *Proceeding of International Conference of Korean Society of Sports Biomechanics*.
- Sano, C., & Takezawa, M. (2025). Examining the Possibility of Maladaptive Cultural Evolution through Oblique Transmission. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, **16**(1), 8-13, 10.5178/lebs.2025.124.
- Sato, S., Mori, K., Masuda, M., Suzuki, M., Taomoto, D., Takasaki, A., Shigenobu, K., Ouma, S., Shinagawa, S., Kobayashi, R., Watanabe, Y., Takeda, A., Miyagawa, Y., Kawanami, A., Tsunoda, N., Hara, K., Hotta, M., Hidaka, Y., Yoshiyama, K., Kowa, H., Katsuno, M., Tsujino, A., Ikeuchi, T., Yabe, I., Nakamura, M., Tanaka, F., Kawakatsu, S., Arai, T., Yokota, O., Izumi, Y., Yoshida, M., Hashimoto, M., Watanabe, H., Sobue, G., Ikeda, M.; FTLD-J Study researchers, (2025). Nation-wide Japanese FTD consortium FTLD-J: Utility of case review meetings. *International Psychogeriatrics*, 100078, 10.1016/j.inpsyc.2025.100078.
- Sato, S., Uwatoko, H., Yaguchi, H., Yamada, M., Sato, K., Kawashima, A., Fukazawa, T., & Yabe, I. (2025). A Retrospective Study of 116 Multiple Sclerosis Patients with Dimethyl Fumarate Treatment in a Single Institution in Japan. *Internal Medicine*, 10.2169/internalmedicine.6217-25.
- Sawagashira, R., & Tanaka, M. (2025). Neural correlates of memory updating in the primate prefrontal cortex. *Communications biology*, **8**(1), 900-900, 10.1038/s42003-025-08271-w
- Suimon, Y., Nishimura, M., Murata, M., Yoshida, S., Yokoi, K., Dong, Z., Kuno, N., Fujii, S., Tanei, Z.I., Yabe, I., Noda, K., & Ishida, S. (2025). Leucine-rich repeat kinase 2 promotes disintegration of retinal pigment epithelial cell: Implication in the pathogenesis of dry age-related macular degeneration. *The American Journal of Pathology*, **195**(7), 1294-1310, 10.1016/j.ajpath.2025.03.002.

- Suzuki, K., Nakadegawa, Y., Miura, K., Shibuya, T., & Ohnuma, S. (2025). Understanding behavioral differences between machine agents and human participants based on how they play the energy transition game. *Simulation and Gaming across Borders (55th International Simulation and Gaming Association Conference)*, 10.1007/978-3-031-86555-8_3.
- Takahashi, T., Kimura, I., Vafaei, S., Takemi, M., Kawahara, J., & Yanagisawa, T. (2025). Effects of publicly available non-invasive brain stimulation on attentional functions in healthy adults: A systematic review and meta-analysis, *PsyArXiv*, 10.31234/osf.io/56xe9_v1.
- Takekoshi, A., Kimra, A., Miyazaki, Y., Oh-hash, K., Kamada, S., Taguchi, Y., Sugawara, M., Watanabe, T., Ueno, Y., Yaguchi, H., Yabe, I., Fukata, Y., Fukata, M., & Shimohata, T. (2026). TMEM132A autoimmunity in patients with suspected autoimmune cerebellar ataxia, *Journal of Neuroimmunology*, **413**, 578867, 10.1016/j.jneuroim.2026.578867.
- Tam, K.-P., Ohnuma, S., Fairbrother, M., & Chan, H.-W. (2025). They reduce, we reduce: Perception of other countries' climate effort predicts support for climate policies. *PLOS Climate*, **4**(12), e0000755, 10.1371/journal.pclm.0000755.
- Tarisawa, M., Matsushima, M., Kudo, A., Nomura, T., Uwatoko, H., Shirai, S., Takahashi-Iwata, I., Sakushima, K., Yaguchi, H., Yokota, I., Nishimoto, N., Sawada, J., Matsuoka, T., Uesugi, H., Minami, N., Sako, K., Takei, A., Hisahara, S., Kanatani, Y., Tamakoshi, A., Sato, N., & Yabe, I. (2025). Trends in invasive interventions and risk factors for early critical events in multiple system atrophy, *The Cerebellum*, **24**(5), 152, 10.1007/s12311-025-01905-z.
- Tsujisawa, Y., Takahashi-Iwata, I., Yabe, I., Mukaino, M., & Shibamoto, I. (2026). Utility of simple speech measures in amyotrophic lateral sclerosis assessment: Focus on alternating motion rate as a screening tool. *Folia Phoniatrica et Logopaedica*, 1-26, 10.1159/000550424.
- Yamada, K., Yaguchi, H., Nakamura, S., Horiuchi, K., Fujii, S., Nomura, T., Kudo, A., Takekoshi, A., Yoshikura, N., Kimura, A., Shimohata, T., & Yabe, I. (2025). Efficacy of early rituximab treatment in anti-mGluR1 encephalitis: A case report. *BMC Neurology*, **25**(1), 319, 10.1186/s12883-025-04345-8.
- Yamada, K., Yaguchi, H., Nakamura, S., Horiuchi, K., Fujii, S., Noumura, T., Kudo, A., Tasaki, K., Hara, M., Nakajima, H., & Yabe, I. (2025). Contrasting outcomes in two cases of anti-contactin-associated protein-like 2 autoimmune encephalitis, *Internal Medicine*, 10.2169/internalmedicine.6343-25.
- Zhou, X.Y., English, A.S., Wei, L.Q., Yudiarsa, A., Dash, A., Tipandjan, A., Biddle, A., Nami, B.H., Boonroungrutj, C., Chettiar, C., Daniele, P., Dubrov, D., Grigoryev, D., Sakan, D., Oliver, E., Korjenic, E.M., Campos, A.F.L., Novaes, F., Maricchiolo, F., Navarro-Carrillo, G., Belen, H., Gunawan, H., Jiang, H., Hofhuis, J., Kunst, J.R., Park, J., Neto, J.C.P., Huang, K.Y., Addington-Lefringhausen, K., Hossain, K.N., Martinez-Buelvas, L., Yousefi, M., Yuki, M., Falavarjani, M.F., Schwarzenthal, M., Klimek-Tulwin, M., Kosakowska-Berezecka, N., Geeraert, N., Khieowan, N., Chobthamkit, P., Sun, Q., Cowden, R.G., Castro, R., Thomson, R., Tong, R.T., Malik, S., Lins, S., Ocovaj, S.B., Wang, S., Aquino, S.D., Kulich, S., Farid, T., Alves, T., Talhelm, T., Jovanovic, V., Yeung, V.W.L., Li, X.Y., & Zhang, X.Y. (2025). Understanding perceived COVID-19 changes, collectivism, and social exclusion: A cross-cultural study in 32 countries. *International Journal of Intercultural Relations*, **107**, 102198, 10.1016/j.ijintrel.2025.102198.
- 【学術雑誌(国内誌)】
- 藤井信太郎・矢口裕章・工藤彰彦・矢部一郎. (2025). Sez612 抗体と小脳性運動失調症. 脳神経内科, **102**(5), 508-516.
- 伊藤資浩・河原純一郎. (2025). 動画広告における打消し表示の文字サイズが視線停留と記憶に及ぼす影響. 心理学研究, **96**(4), 229-238, 10.4992/jpsy.96.24004.
- 伊藤泰幹. (2026). 札幌市におけるヒグマの出没「問題」とその解決に向けて. 環境社会学研究, **31**, 107-122.
- 神田朔・周宇暉・金子沙永. (2025). 点滅する数字の知覚時間. *VISION*, **37**(2), 59-67, 10.24636/vision.37.2_59.
- 小濱祥子・飯田健. (2025). 米国における政党分極化と日米同盟の信頼性に関する実験研究. 国際安全保障, **53**(1), 20-39.
- 松島理明・矢部一郎. (2025). 筋疾患に対する Proactive medicine と遺伝カウンセリング. 難病と在宅ケア, **31**(9), 11-14.
- 村上道夫・高田モモ・柴田侑秀・白井浩介・大沼進・保高徹生. (2025). 決定木分析による除去土壌等の最終処分場受け入れ要因の解析. リスク学研究, **35**(2), 73-82, 10.11447/jjra.O-24-013.
- 大沼進・柴田侑秀・相馬ゆめ・辻本光英. (2025). 除去土壌問題をめぐる多元的公正とプロセスデザインの実験的アプローチ. 廃棄物資源循環学会誌, **36**(2), 186-192, 10.3985/mcwmr.36.186.
- 大澤英昭・大沼進. (2025). 高レベル放射性廃棄物地層処分施設のサイト選定方式による立地受容への影響要因の違い. リスク学研究, **35**(2), 83-95, 10.11447/jjra.O-24-028.
- 尾崎一郎. (2025). 高齢者支援の理念と現実—予防的支援は可能か—. 法律時報, **97**(9), 92-97.
- 尾方克久・矢部一郎. (2025). 日本神経学会と日本難病医療ネットワーク学会における取り組み. 成人移行支援の現在: 学会における取り組み. 内科, **135**(5), 1082-1085, 10.15106/j_naika135_1082.
- 澤頭亮・田中真樹. (2025). 短期記憶の消去に關与する外側前頭前野ニューロン. 北海道医学雑誌, **100**(2), 81-81.
- 篠原もえ子・伊東大介・小野賢二郎・矢部一郎. (2025). 認知症の地域医療連携～抗 Aβ 抗体薬発売後の現状と課題(座談会). The Curator of Neurocognitive Disorders, **2**(3), 16-25.
- 白井慎一・江口克紀・矢部一郎. (2025). 遺伝性脊髄小脳変性症の臨床: その進歩. 脳神経内科, **103**(2), 171-174.
- 田辺弘子. (2025). 日常動作にみる美しさ～歩行動作の魅力～. バイオメカニズム学会誌, **49**(3), 167-172.
- 矢部一郎. (2025). 脳神経内科領域におけるゲノム医療の倫理的課題. メディカルエシックス 70. 第 70 回医学系大学倫理委員会連絡会議, **70**, 35-46.
- 矢部一郎・岩田育子. (2025). 過疎地域における認知症の医療連携～抗 Aβ 抗体薬治療を含めて. The Curator of Neurocognitive Disorders, **2**(3), 35-39.
- 矢部一郎・柴田有花. (2025). 重篤な遺伝性疾患の主治医からみた PGT-M. 日本医師会雑誌, **154**(3), 281-284.
- 矢部一郎・柴田有花. (2025). 頭痛を症状とする遺伝性疾患 Overview. 日本頭痛学会誌, **52**(1), 68-72, 10.50860/jjho.52.1_68.
- Yamada, K., Nunomura, S., Inoue, T., Nakamura, S., Horiuchi, K., & Yabe, I. (2025). Clinical features of three cases of

- neurosarcoidosis with a positive aquaporin-4 antibody requiring differentiation from neuromyelitis optica spectrum disorder. *臨床神経学*, **65**(12), 886-891, 10.5692/clinicalneuro.cn-002155.
- 吉原佑器・田辺弘子・Nihan Karatas・金森等・原田あすか・小島基資・真鍋周平・田中貴紘. (2025). 頭部動作による運転評価システムと高齢ドライバーへの行動変容効果の検討. *自動車技術会論文集*, **56**(4), 683-688, 10.1131/jsaer-onbun.56.683.
- 【学会発表(国際学会)】
- Abe, M.O., & Matsuda, Y. (2025). Modulation of online cooperation during joint force production by transcranial alternating current stimulation. *10th Joint Action Meeting (JAM X)*.
- Ando, K., Sugiura, J., Hübner, G., Tam, K-P., Kambara, A., Yasuhara, A., Tsujimoto, H., & Ohnuma, S. (2025). Does Participation in the Persuasion Game Change the Perception of Others' Interests in Environmental Issues and One's Own Intention to Converse? A Comparison Among Germany, Hong Kong, and Japan. *International Conference on Environmental Psychology. International Conference on Environmental Psychology*.
- Ehkirch, Q., Uemura, M., Konda, Y., Uehara, R., Souma, Y., & Ohnuma, S. (2025). Role-play games as a mediator for perspective-taking fostering social acceptability of burden-sharing the final disposal of the removed soil outside Fukushima. *The 2nd Social Sciences and Humanities Workshop on Fukushima*.
- Fujii, S., Yaguchi, H., Kudo, A., Nomura, T., Uwatoko, H., Hamada, Y., Hirai, A., Fukumoto, Y., Yamagishi, Y., Nagai, Y., & Yabe, I. (2025). Establishment of measurement system for KLHL11 antibodies in Japan, and results of measurement in a large number of autoimmune cerebellar ataxia patients. *XXVII World Congress of Neurology (WCN 2025)*.
- Hasegawa, O., Ohnuma, S., Imai, R., Kaida, N., Itoi, K., & Takahashi, M. (2025). An examination of plastic consumption and purchase behavior through the dual-motivation model. *The Asian Association of Social Psychology Conference*.
- Kobayashi, K., & Kasai, T. (2025). Visuo-attentional processes underlying selective enumeration of emotional faces. *Society for Psychophysiological Research*.
- Kohama, S. (2025). The Domestic Political Impacts of International Trips: Evidence from Survey Experiments in Japan. *American Political Science Association Annual Meeting 2025*.
- Kohama, S. (2025). Self vs Elite Perspective in Experimental International Relations Research: Challenges and Insights. *Pacific International Politics Conference 2025*.
- Kohama, S. (2025). Self vs Elite Perspective in Experimental International Relations Research: Challenges and Insights. *Pacific International Politics Conference Online Speaker Series*.
- Kohama, S. (2025). When Diplomacy Travels Home: How Leaders' Foreign Trips Affect Public Opinion. *GraSPP Research Seminar*.
- Kudo, A., Yaguchi, H., Fujii, S., Nomura, T., Uwatoko, H., Kimura, A., Shimohata, T., & Yabe, I. (2025). Seizure-related 6 homolog like 2 autoimmunity in Japan: A series of 10 cases with autoimmune cerebellar ataxia. *XXVII World Congress of Neurology (WCN 2025)*.
- Kusakabe, H., Schug, J., & Yuki, M. (2026). Relational Mobility and Reputation Exchange: Experience Sampling Study Across Societies. *2026 Convention of the Society for Personality and Social Psychology*.
- Matsushima, M., Sakushima, K., Kanatani, Y., Nishimoto, N., Sawada, J., Matsuoka, T., Uesugi, H., Minami, N., Sako, K., Takei, A., Hisahara, S., Tamakoshi, A., Sato, N., & Yabe, I. (2025). Natural history and epidemiological study of multiple system atrophy in Hokkaido: HoRC-MSA 2014-2025. *The 2025 International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders*.
- Mori, Y., Yuki, S., Nakamata, T., & Ohnuma, S. (2025). Action research to curb littering near rivers using public art drawn by children. *The Asian Association of Social Psychology Conference*.
- Nomura, T., Yaguchi, H., Tanaka, D., Kudo, A., Mori, F., Miki, Y., Wakabayashi, K., & Yabe, I. (2025). Behavioral and histological analyses of mice with BSN p.P3882A mutation. *XXVII World Congress of Neurology (WCN 2025)*.
- Ohnuma, S., Ehkirch, Q., Uemura, M., Konda, Y., Uehara, R., & Souma, S. (2025). Fair allocation of burden matters in the process of public-stakeholder engagement: A demonstration study using the "Removed Soil Game". *The 2nd Social Sciences and Humanities Workshop on Fukushima*.
- Pan, J., Kudo, A., Yaguchi, H., Fujii, S., Tarisawa, M., Nomura, T., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., & Yabe, I. (2025). Investigation of Anti-KLHL11 and Anti-Sez6l2 Antibodies in Patients with MSA. *XXVII World Congress of Neurology (WCN 2025)*.
- Sato, S., Uwatoko, H., Yaguchi, H., Eguchi, K., Yamada, M., Sato, K., Kawashima, A., Fukazawa, T., & Yabe, I. (2025). Efficacy and Personalization of Dimethyl Fumarate in Multiple Sclerosis Treatment: A Comparative Analysis. *17th International Congress of Neuroimmunology (ISNI 2025)*.
- Souma, Y., Ehkirch, Q., Uehara, R., Nakazawa, T., Tatsumi, T., Arima, Y., & Ohnuma, S. (2025). Effect of deliberations on the opinion change related to acceptance of removed soil in the residential regions. *The 2nd Social Sciences and Humanities Workshop on Fukushima*.
- Souma, Y., Shibata, Y., Tsujimoto, M., Cui, Q., Nakazawa, T., Tatsumi, T., Arima, Y., & Ohnuma, S. (2025). The Effect of Discussion Frame on the Utterances' Content: Analysis from the Perspective of Multiple Common Goods. *The 20th Biennial Meeting of the International Society for Justice Research*.
- Takimoto-Inose, A., Nakamura, R., Yoshioka, K., Hori, Y., Kawai, M., & Nakamichi, M. (2025). An exploratory study of factors influencing stress in mares of Hokkaido native horses during weaning process. *The 58th Congress of the International Society for Applied Ethology*.
- Tanaka, M. (2025). A cerebellar internal model for temporal prediction of rhythms (invited lecture). *K-Brain 2025 & The 3rd CJK Neuroscience Meeting (KSBN2025)*.
- Tanaka, M. (2025). Decoding subcortical mechanisms of temporal prediction of periodic events (invited lecture). *Timing Research Forum 4 (TRF4)*.
- Uwatoko, H., Sato, S., Yaguchi, H., Eguchi, K., Yamada, M., Sato, K., Kawashima, A., Fukazawa, T., & Yabe, I. (2025). Severe neutropenia associated with Ofatumumab treatment in patients with multiple sclerosis. *17th International Congress of Neuroimmunology (ISNI 2025)*.
- Yuki, M., & Maeda, Y. (2026). Relational Mobility and Reputation Management Explain Cultural Differences in Assertiveness. *2026 Convention of the Society for Personality and Social Psychology*.

【学会発表(国内学会)】

- 安達寛子・柿並義宏・郡山尚紀・越野 一博・瀧本(猪瀬)彩加. (2025). 子を全頭で守る：飼育下アジアゾウの非血縁群れにおける警戒・集合要因の探索的検討. 日本動物行動学会第 44 回大会.
- 赤池 瞬・大槻美佳・浦茂久・緒方昭彦・福武敏夫・矢部一郎. (2025). 続発性進行性失語 (DPA) : PSP/CBS の新たな言語障害の臨床概念. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 安藤香織・大沼進. (2025). 人と AI の共生に向けて：人間-AI 相互作用を探る. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 張雅荃・小林慧・河西哲子. (2025). 自閉症傾向は複数顔に対する知覚処理時間に関わる. 北海道心理学会第 72 回大会.
- 土井翔平・小野純平・山口智大・小浜祥子. (2025). 外交のどこに女性はあるのか？ 外務省本省幹部のジェンダーバランスの分析. 2025 年度日本政治学会研究大会.
- 江口克紀・矢口裕章・上床尚・飯田有紀・濱田晋輔・伊藤芳子・本間早苗・武井麻子・森若文雄・矢部一郎. (2025). 歩行動画と深層学習を利用した脊髄小脳変性症患者の SARA スコアの予測. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- Fujii, S., Yaguchi, H., Kudo, A., Eguchi, K., Nomura, T., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., Tanaka, K., Yoneda, M., Kimura, A., Hamada, Y., Fukumoto, Y., Yamagishi, Y., Nagai, Y., & Yabe, I. (2025). Establishment of assay system KLHL11 antibodies and results in autoimmune cerebellar ataxia. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 藤井信太郎・矢口裕章・工藤彰彦・野村太一・上床尚・矢部一郎. (2025). 当院で臨床的に自己免疫性小脳失調症と診断した症例の自己抗体測定、ならびに免疫組織学的検討. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会.
- 原田直輝・河西哲子. (2025). 顔表情に対する注意の時間的推移. 第 39 回日本生理心理学会大会.
- 長谷川由弥オリバ・寺垣 穂香・糸井 風音・甲斐田 直子・高橋 舞・大沼 進. (2025). 環境配慮行動に関わる価値観の潜在構造の検討：日本人サンプルにおける因子分析. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 林航平・伊藤泰幹・伊藤彩乃・石田隆悟・須藤哲平. (2025). 哺乳類学に求められる『サイエンスコミュニケーション』を探る. 日本哺乳類学会 2025 年度大会.
- 市之川萌奈美・松島理明・佐久嶋研・金谷泰宏・西本尚樹・澤田潤・松岡健・上杉春雄・南尚哉・佐光一也・武井麻子・久原真・玉腰暁子・佐藤典宏・矢部一郎. (2025). 多系統萎縮症における侵襲的治療介入の傾向とリスク因子の解析. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 五十嵐聡汰・日下部春野・結城雅樹. (2025). 自尊心の日米差を支える社会的相互作用メカニズム 関係流動性と称賛・批判の媒介効果の検討. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 石川楓・宮岸麻衣・脇田雅大・浦茂久・矢口裕章・矢部一郎. (2025). 血漿交換が有用だった自己免疫性 glial fibrillary acidic protein (GFAP) アストロサイトパチーの 1 例. 第 43 回日本神経治療学会学術集会.
- 伊藤泰幹. (2025). 市民によるヒグマの出没抑制対策を順応的に進めるには？—放棄果樹伐採ボランティアにおける参加動機に着目して. 第 30 回「野生生物と社会」学会大会.
- 岩田育子・松島理明・中村悠一・尾崎孝爾・熊谷聡美・加藤隆弘・矢部一郎. (2025). 軽度認知障害患者における握力が認知機能へ及ぼす影響. 第 44 回日本認知症学会学術集会.
- 岩田育子・松島理明・中村悠一・尾崎孝爾・熊谷聡美・加藤隆弘・矢部一郎. (2025). 軽度認知障害患者における握力が認知機能へ及ぼす影響. 第 44 回日本認知症学会学術集会.
- 柿並義宏・安達寛子・郡山尚紀・瀧本(猪瀬)彩加・越野 一博. (2025). アジアゾウが警戒集合時に発する超低周波音の特徴. 日本動物行動学会第 44 回大会.
- 小林慧・河西哲子. (2025). 喜び表情顔の選択的計数における共感的関心の影響. 日本心理学会第 89 回大会.
- 小林慧・河西哲子. (2025). 複数他者の喜び表情の計数にともなう ERP 成分. 第 43 回生理心理学会大会.
- 小林智之・高田モモ・白井浩介・柴田侑秀・大沼進・保高徹生・村上道夫. (2025). 復興再生利用の規模と県外最終処分会の社会受容. 第 38 回日本リスク学会年次大会企画セッション「除去土壌等の福島県外最終処分と復興再生利用. 第 38 回日本リスク学会年次大会企画セッション「除去土壌等の福島県外最終処分と復興再生利用：社会受容性評価と実現への課題」.
- 古賀達也・高畑優・伊藤泰幹. (2025). 野生動物管理における社会科学の事例研究:到達点と今後の展望(青年部会 TS). 第 30 回「野生生物と社会」学会大会.
- Kudo, A., Yaguchi, H., Watanabe, M., Nomura, T., Tanaka, K., Takahashi, H., Hatakeyama, S., & Yabe, I. (2025). Shotgun proteomics analysis of immunoprecipitation in five cases with LGI1 antibody encephalitis. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 日下部春野・貴堂雄太・結城雅樹. (2025). 関係流動性と評判情報流通の文化差:オンラインレビューを用いた大規模国際比較. 日本人間行動進化学会第 18 回大会.
- 日下部春野・結城雅樹. (2025). 異なる関係流動性下における評判管理戦略. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 工藤彰彦・矢口裕章・矢部一郎. (2025). 小脳性運動失調症と悪性腫瘍. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会 シンポジウム 9.
- Matsushima, M., Sakushima, K., Kanatani, Y., Nishimoto, N., Sawada, J., Matsuoka, T., Uesugi, H., Minami, N., Sako, K., Takei, A., Hisahara, S., Tamakoshi, A., Sato, N., & Yabe, I. (2025). Natural history and epidemiological study of multiple system atrophy in Hokkaido: HoRC-MSA 2014-2024. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- Miyatake, S., Doi, H., Yaguchi, H., Morino, H., Izumi, Y., Shimohata, T., Yoshida, K., Adachi, H., Tanaka, F., Yabe, I., & Matsumoto, N. (2025). Unraveling the Genetic Landscape of SCA27B: Nanopore Sequencing of GAA-FGF14 Ataxia in Japanese. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 宮内泰介・大石智美. (2025). 野生動物と人のあつれきの質的モニタリングの必要性和その方法：北海道のヒグマを事例に. 第 30 回「野生生物と社会」学会大会.

- 水地智基・相津琢磨・櫻井陽一・森下智之・吉村健佑・鈴木竜司・矢部一郎・岩田育子・勝野雅央・深見祐樹・小池春樹・井出俊宏・三澤園子・桑原聡. (2025). 末梢神経疾患の診断支援 AI モデルの開発：多施設共同研究. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- Mizushima, K., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., Yaguchi, H., & Yabe, I. (2025). Autosomal dominant spinocerebellar degeneration (AD-SCD) genetic testing compared after insurance. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 中村亮一・藤内玄規・熱田直樹・松田侑美・森本悟・伊藤大輔・勝野雅央・和泉唯信・森田光哉・岩田育子・矢部一郎・服部信孝・平山剛久・狩野修・鈴木直輝・青木正志・道勇学・岡野栄之・中枘昌弘・祖父江元・JaCALS. (2025). 筋萎縮性側索硬化症患者の発症年齢に関連する新規遺伝的因子の同定. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 中村俊太郎・山田一貴・堀内一宏・矢部一郎. (2025). 妊娠中に発症し再発を繰り返した緑膿菌性髄膜炎. 第 29 回日本神経感染症学会総会・学術大会.
- 野村太一・松島理明・武石侑杜・石坂傑・藤田穂波・向中野実央・柴田有花・西野一三・山田崇弘・矢部一郎. (2025). 心疾患発見を契機に診断再考となり、本人と家族への対応が可能になった Emery-Dreifuss 型筋ジストロフィーの 1 例. 第 49 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会.
- Nomura, T., Yaguchi, H., Uwatoko, H., Muramatsu, K., Izumi, K., Ujiie, H., Kawashima, A., Fukazawa, T., & Yabe, I. (2025). Three cases of multiple sclerosis presenting with palmoplantar pustulosis while receiving ofatumumab. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 野村太一・矢口裕章・田中大貴・矢部一郎. (2025). 脱髄による軸索変性と再髄鞘化に Bassoon (BSN) タンパク質変異が与える影響の検討. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会 第 32 回 (令和 6 年度) 日本多発性硬化症協会研究助成金受賞者講演.
- 小川和記・野本樹里・勝元敦子・林幼偉・藤井信太郎・工藤彰彦・矢口裕章・矢部一郎・高橋祐二. (2025). 亜急性に進行する運動失調及び認知機能低下、パーキンソニズムを呈した Sea612 抗体陽性脳炎の 1 例. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会.
- 小野さくら・川口舞・水鳥翔伍・高橋伸幸. (2025). 間接互恵性における情報伝達の正確性の検討—話し合いに伴う同調に注目して—. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 小野さくら・高橋伸幸. (2025). 集権罰制度の自生メカニズムの実験的検討. 数理社会学会第 79 回大会.
- 大木聡悟・山口秀・伊師雪友・工藤彰彦・矢口裕章・種井善一・岡田宏美・高桑恵美・矢部一郎・田中伸哉・藤村幹. (2025). 術前画像で内側側頭葉神経腫瘍を疑った抗 LGI1 抗体関連脳炎の 2 例. 第 30 回日本脳腫瘍の外科学会.
- 太田緑・村中徹人・横澤恵・國枝保幸・矢部一郎. (2025). 脳神経内科専門医不在地域での患者支援体制における多職種カンファレンスの試み. 難病支援学術コンソーシアム (第 13 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会 / 第 30 回日本難病看護学会学術集会 / 第 11 回神経難病リハビリテーション研究会).
- 尾崎一郎 (2025). 法をめぐるミスコミュニケーション—現代社会の構造的病理と法の役割をめぐって—. 東方明珠大講演 (華東政法大学).
- 尾崎一郎 (2025). 法秩序の変遷と模倣慣習. 2025 年度日本法社会学会学術大会.
- Pan, J., Kudo, A., Yaguchi, H., Fujii, S., Tarisawa, M., Nomura, T., Uwatoko, H., Shirai, S., Iwata, I., Matsushima, M., & Yabe, I. (2025). Investigation of anti-KLHL11 antibodies in patients with MSA-C. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 林峰竹・小林慧・河西哲子. (2025). 複数他者表情の早期知覚段階における ADHD 傾向の影響. 日本心理学会第 89 回大会.
- 齋藤悠輔・竹澤正哲. (2025). 高信頼者はなぜ他者の信頼情報に敏感なのか：ページアン・アプローチによる説明. 日本人間行動進化学会第 18 回大会.
- 齋藤悠輔・竹澤正哲. (2025). 一般的信頼の社会差はいかなるメカニズムから生じるか：階層ベイズ認知モデルによる検討. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 白井慎一・工藤彰彦・野村太一・上床 尚・岩田育子・松島理明・佐久嶋 研・矢口裕章・矢部一郎. (2025). 脊髄小脳失調症 1 型の自然歴調査研究 (第 2 版). 第 66 回日本神経学会学術大会.
- Song, X., Sugimoto, Y., Takimoto-Inose, A., Tsukahara, Y., Anderson, J.R., & Kuroshima, H. (2025). フサオマギザルにおける第三者社会的評価の形成と更新. 日本動物心理学会第 85 回大会.
- 相馬ゆめ・Quentin Ehkirch・上原礼央奈・上村真菜・近田裕亮・大沼進. (2025). 公正な配分は良質な討議をもたらす：除去土壌ゲームを用いた建設的公論形成のプロセス. 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2025 年秋期全国大会.
- 相馬ゆめ・Quentin Ehkirch・上原礼央奈・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2025). 除去土壌県外最終処分における候補地数が議論の帰結に及ぼす効果：仮想シナリオを用いた集団討議実験による検討. 第 38 回日本リスク学会年次大会企画セッション「除去土壌等の福島県外最終処分と復興再生利用：社会受容性評価と実現への課題」.
- 相馬ゆめ・Quentin Ehkirch・上原礼央奈・中澤高師・辰巳智行・有馬淑子・大沼進. (2025). なぜ除去土壌は受け入れられるのか：仮想シナリオを用いた集団討議実験から得られたデータに対する定性的分析. 第 38 回日本リスク学会年次大会.
- 相馬 ゆめ・柴田 侑秀・崔 青林・中澤 高師・辰巳 智行・有馬 淑子・大沼 進. (2025). 負担配分の公平さが当事者性の高い人々の議論に与える影響の検討：除去土壌福島県外処理問題を題材とした集団討議実験. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 朱一鳴・結城雅樹. (2025). The Manipulation of Relational Mobility. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 高田モモ・村上道夫・大沼進・保高徹生. (2025). 焼却残さの減容化シナリオに対する市民と専門家の選好の違いと管理期間情報が市民の選好に及ぼす影響. 第 38 回日本リスク学会年次大会.
- Takahashi-Iwata, I., Tarisawa, M., Uwatoko, H., Matsushima, M., Shirai, S., Yaguchi, H., Ozaki, T., Udo, N., Ikebe, Y.,

- Hirata, K., Kudo, K., & Yabe, I. (2025). Analysis of patients with mild cognitive impairment who are negative for amyloid pathology. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 竹西海人・竹澤正哲. (2025). 集合知における全員一致規則の頑健性:確率的に意見表明する話し合いのダイナミクス・モデルによる検討. 日本人間行動進化学会第 18 回大会.
- 竹西海人・竹澤正哲. (2025). 全員一致規則と確信度が生み出す話し合いの集合知. 日本社会心理学会第 66 回大会.
- 竹澤正哲. (2025). 森中(2024)に対する論評『人の心は科学的事実によって動かせるのか?』. 日本生物地理学会市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか?」.
- 瀧口由宇・竹澤正哲. (2025). 質的応答均衡と平均場. 日本物理学会 第 80 回年次大会.
- 瀧本(猪瀬)彩加. (2025). ウマの生態とところ一人馬の望ましい関係性構築に向けて―. 日本動物行動学会第 44 回大会.
- 瀧本彩加・藤田和生. (2025). 協力は、フサオマキザルのコストを伴う向社会的な報酬分配を促進するか? 関西心理学会第 123 回大会.
- Tanaka, D., Yaguchi, H., Kudo, A., Yoshizaki, K., Nomura, T., Pan, J., Takahashi, H., Miki, Y., Mori, F., Wakabayashi, K., & Yabe, I. (2025). Analyses of Bassoon knock-in mice until twelve months of age: the second report. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- Tanaka, M. (2025). Internal model of the cerebellum for rhythm perception(招待講演). 第 130 回日本解剖学会・第 102 回生理学会・第 98 回薬理学会合同大会 (APPW2025).
- 田中真樹. (2025). 周期刺激の小脳内部モデル(招待講演). 第 15 回日本小脳学会学術大会.
- 浦茂久・宮岸麻衣・石川楓・脇田雅大・矢口裕章・矢部一郎. (2025). 多発性単神経炎を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) の臨床像と治療法. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 浦茂久・雑賀将・井上貴司・脇田雅大・岩田育子・矢口裕章・矢部一郎. (2025). 北海道東北地域の抗アミロイドβ抗体薬の使用状況と問題点. 難病支援学術コンソーシアム(第 13 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会 / 第 30 回日本難病看護学会学術集会 / 第 11 回神経難病リハビリテーション研究会).
- 浦茂久・脇田雅大・井上貴司・雑賀将・矢口裕章・矢部一郎. (2025). 多発性単神経炎を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) の臨床像と治療法. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会.
- 上床尚・足澤萌奈美・野村太一・藤井信太郎・田中大貴・工藤彰彦・白井慎一・岩田育子・松島理明・矢口裕章・南場研一・石田晋・矢部一郎. (2025). Vogt-小柳-原田病における脳脊髄液所見の検討. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 上床尚・宮崎雄生・野村太一・工藤彰彦・白井慎一・岩田育子・松島理明・矢口裕章・津坂和文・保前英希・浦茂久・松岡健・濱田晋輔・宮岸隆司・深澤俊行・堀内一宏・新野正明・菊地誠志・矢部一郎. (2025). 神経疾患に対する Doctor to Patients with Doctor 形式のオンライン診療についての検討. 難病支援学術コンソーシアム(第 13 回日本難病医療ネットワーク学会学術集会 / 第 30 回日本難病看護学会学術集会 / 第 11 回神経難病リハビリテーション研究会).
- 上床尚・矢口裕章・深澤俊行・矢部一郎. (2025). 慢性進行性の病変を呈した AQP4 抗体陽性視神経脊髄炎スペクトラム障害 (NMOSD) の 2 例. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会.
- 脇田雅大・雑賀将・井上貴司・浦茂久・矢口裕章・矢部一郎. (2025). Gemella morbillorum による Lemierre 症候群に併発した多発脳膿瘍の 1 例. 第 29 回日本神経感染症学会総会・学術大会.
- 矢口裕章・野村太一・矢部一郎. (2025). Bassoon 遺伝子バリエーションと神経疾患の関係性. 第 66 回日本神経学会学術大会 ホットトピックス 08.
- 矢部一郎. (2025). ダニ媒介脳炎. 第 66 回日本神経学会学術大会 ランチョンセミナー48.
- 山田一貴・中村俊太郎・田崎健太・原誠・堀内一宏・矢部一郎. (2025). 治療開始までの時間差により予後が大きく異なった抗 Caspr2 脳炎の 2 例. 第 37 回日本神経免疫学会学術集会.
- 山田晋一郎・清水 忍・天野祐理・若杉宜美・木下文恵・岸本祥之・川瀬崇広・橋詰 淳・伊藤大輔・近藤彩乃・森 悠・山本宗隆・矢部一郎・森田光哉・桑原聡・戸田達史・長野清一・勝野雅央. (2025). 球脊髄性筋萎縮症に対してメキシレチン塩酸塩を投与する医師主導治験のプロトコール. 第 66 回日本神経学会学術大会.
- 山元佑也・高橋伸幸. (2025). 社会的交換における公正性認知再考―規定因と評価対象の多様性に着目した検討―【研究計画】. 日本人間行動進化学会第 18 回大会.
- 山元佑也・高橋伸幸. (2025). 間接互惠性状況において他者の評価ルールが明示的であるときに人々は行動を調整するのか. 日本グループ・ダイナミックス学会第 71 回大会.
- 結城雅樹・日下部春野. (2025). 文化心理学の四つの「なぜ」:ティンバーゲンの枠組みによる再整理. 日本人間行動進化学会第 18 回大会.

(2026 年 3 月現在)

付録 組織構成員

(1) 専任教員

小倉有紀子 社会科学実験研究センター・特任助教
JST さきがけ研究者

仲真紀子 理化学研究所・理事
伊藤孝行 京都大学大学院情報学研究科・教授
松尾睦 青山学院大学経営学部・教授
小川昭利 札幌学院大学・教授

(2) 兼務教員一覧

大沼進 文学研究院・教授、
社会科学実験研究センター・センター長
田中真樹 医学研究院・教授、
社会科学実験研究センター・副センター長
宮内泰介 文学研究院・教授
尾崎一郎 法学研究科・教授
五十嵐洋介 共政策学連携研究部・准教授
深山誠也 経済学研究院・准教授
小浜祥子 公共政策学連携研究部・教授
矢部一郎 医学研究院・教授
結城雅樹 文学研究院・教授
高橋泰城 文学研究院・教授
高橋伸幸 文学研究院・教授
竹澤正哲 文学研究院・教授
小川健二 文学研究院・教授
瀧本彩加 文学研究院・准教授
河原純一郎 文学研究院・教授
金子沙永 文学研究院・准教授
田辺弘子 文学研究院・准教授
河西哲子 教育学研究院・教授
阿部匡樹 教育学研究院・教授
中島晃 文学研究院・助教

(3) 連携研究員一覧

坂上雅道 玉川大学脳科学研究所、
大学院脳科学研究科・教授
亀田達也 明治学院大学 情報物理学部・教授
増田貴彦 アルバータ大学・教授
Harvey オックスフォード大学・教授
Whitehouse
Kim-Pong Tam 香港科技大学・教授

(4) 運営委員会委員一覧

大沼進 文学研究院・教授、
社会科学実験研究センター・センター長
田中真樹 医学研究院・教授
社会科学実験研究センター・副センター長
林琢也 文学研究院・准教授
伊藤翼 経済学研究院・准教授
相沢智康 先端生命科学研究院
服部 倫卓 スラブ・ユーラシア研究センター・教授
河原純一郎 文学研究院・教授
尾崎一郎 法学研究科・教授
河西哲子 教育学研究院・教授
五十嵐洋介 公共政策大学院・准教授

(5) 研究倫理委員会委員一覧

高橋伸幸 文学研究院・教授
阿部匡樹 教育学研究院・教授
松尾睦 青山学院大学経営学部・教授
石井敬子 名古屋大学大学院情報学研究科・教授

(6) 質保証委員会委員一覧

大沼進 文学研究院・教授、
社会科学実験研究センター長
石井敬子 名古屋大学大学院情報学研究科・教授
(外部委員)
土橋祐美 文学事務部事務長



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

社会科学実験研究センター